



## 技術や制度だけでは解決できない課題を 探求していくことが人間科学の役割です

**村岡 慶裕** 人間科学部 健康福祉科学科 准教授

Muraoka Yoshitiro

Profile

1995年慶應義塾大学理工学部計測工学科卒業。2000年理工学研究科生体工学専攻附随博士課程単位取得退学。慶應義塾大学理工学部助手(月夜リハビリテーション出向)、藤田保健衛生大学リハビリ学専攻助教授、慶應義塾大学医学部臨床教授、国立病院機構横浜医療センター臨床研究センター室長を経て、11年4月より現職。博士(工学)、09年認定心理士。  
専門よりリハビリテーション科学、生体計測、医療福祉機器の開発と事業化。片麻痺者の随意運動制御型電気刺激装置「Integrated Volitional control Electrical Stimulator = IVES (アイビス)」、片麻痺者の歩行補助ロボット「Wearable Power-Assist Locomotor = WPAL (ウーパール)」など。

私の専門は、リハビリテーション科学と生体計測です。「リハビリテーション」というと、機能回復訓練を思い浮かべる人が多いと思いますが、その語源はre(再び)habilis(適した)ation(にすること)からきており、病気や怪我から再びその人にとってふさわしい状態に戻すことです。私が開発に携わってきた麻痺回復用の電気刺激装置「IVES (アイビス)」や、歩行補助ロボット「WPAL (ウーパール)」は、医工連携によって生まれた技術ですが、基本理念は患者さんにとって本当に必要とされるものを作るということです。

法律や制度などの問題乗り越え、いかに技術的に優れた装置やロボットを完成させたとしても、患者さん本人が望まないものや、医療現場で使にくいものであれば、研究に費やした膨大な時間と費用が無駄になってしまいます。私自身も当初は工学の観点だけで機器開発を考えており、失敗した経験があります。しかし、リハビリセンターなどでさまざまな現場で多くの患者さんと接し、医療チームの一員として臨床経験を重ねたことで、患者さんは自分自身の力で日常生活を送りたくて訓練をしているということに気づかされました。

機器開発には技術者、医療関係者、メーカーなどの協力が必要で、異分野の専門家をつなぐ人材が求められています。私のゼミでは学内にとどまらず施設見学を行っています。学生には現場の状況をよく把握し、単なる「便利さの追求」だけでは

なく、患者さんが何を求めているのかを理解することが不可欠だと伝えています。

それが、well-being(健康で幸福に暮らすこと)という人間科学の根幹となる考え方につながります。幸福感を持って人間らしく生きるということについては、価値観や幸福度は千差万別で、その国の文化によっても大きく異なります。しかし、生物の中で「ヒト」だけが持つ大きな特長は、私は生命とともに文化をもつていけることだと考えています。そのあるべき姿を追究していくことが人間科学の役割であると思っています。

高校生の皆さんは、人間科学部に入学したら一度、それまでの生き方をリセットしてみませんか、と言いたいですね。皆さんはIPS細胞のように何者にもでもなれる可能性を秘めています。最初から特定の分野だけを学ぶのではなく、生命から歴史、心理や環境に至るまで幅広い学問にふれて、ヒトとモノを多様な面からみれば豊富な感性を養ってください。その上で、自分の専門性を追究していけば、きっと多くの場面で求められる人材になれることでしょう。ここで共に学び、それぞれの自己実現を目指しながら、人間らしくより良く生きられる世界を追究してみませんか。



実験を引き出すみつまつ道具IVES(左上側)

## 「人を笑顔にしたい」との思いを軸に 学びや課外活動に取り組んでいます

関心のあった心理学に加えて、医療や福祉も学べる点に魅力を感じ健康福祉科学科を選びました。授業をきっかけに福祉機器に興味を湧かせ、3年生から村岡先生の研究室に所属して、心身に障害を持つ方の自己実現支援技術や生体計測について学んでいます。常に心にあるのは「開発者側の都合を優先するのではなく、医療現場や患者本人のニーズをくみ取ることが大切」という先生の教えです。ゼミでは医療現場での臨床研修も多く、取り組んでいる研究とのつながりを実感でき、学びへのモチベーションを一層高めてくれます。

文系・理系両面からアプローズできる人間科学部での学びを通して、視野が広がったと感じています。入学前は理数系の授業についていけない不安もありましたが、学習面でのサポート体制は万全です。また、ゼミでプログラミングに取り組んだ際には理系出身の仲間にも大いに助けられました。将来は、業界を問わず人を笑顔にできる仕事に携わりたいと思っています。その思いは課外活動にもつながり、演劇サークルに舞台として、児童自立支援施設でボランティア活動などを行ったりしています。やりたいことに挑戦できる環境がたくさんあり、自分の意思次第でいくらか成長の機会を得られることが、早稲田の魅力だと実感しています。



**山本 ひとみ** Yamamoto Hitomi

宮城県仙台第二高校出身 / 人間科学部 健康福祉科学科3年

専任教員一覧

■氏名 専攻分野/主な担当科目

■人間環境科学科	
教授	天野 正博 資源管理、地球環境保全/環境管理計画学
	池田 義孝 社会学、実証研究/家族社会学
	井内 友郎 社会学、環境社会学/水圏環境科学
	白井 夫夫 社会学、都市社会学/都市社会学
	太田 俊二 地球環境科学、生物圏生態学/地球環境システム論
	柏 謙之 環境経済学、農業経済学、内発的発展論/地域資源論
	歳持 三也 文化人類学、フランス民族学/文化人類学
	石田 尚子 人口社会学、地域社会学、質的調査方法/人口社会学、人口学
	廣田 廣文 アジア社会論、地域研究/社会開発論
	吉川 卓雄 考古学、日本考古学/日本文化研究
	鳥越 皓之 社会学、民俗学、環境問題、地域文化/環境社会学
	根ヶ山 光一 行動学、発達行動学/発達行動学
	橋本 健二 社会学/階級・階級論、労働社会学
	三浦 慎悟 生物学、動物行動生態学/野生動物保全管理学
	村上 公子 ドイツ語、ドイツ地域文化/ドイツ近現代史
	森川 靖 生物学、環境生態学/環境生態学
	森本 豊富 移民研究/異文化間教育論
	矢野 敬生 文化人類学、社会人類学/社会人類学
	山内 晃人 生物学、神経内分泌学/脳の構造と機能
准教授	小島 隆之 建築学、建築環境学、環境行動学/建築環境学
	藤本 将也 環境心理・環境デザイン学/環境デザイン論
	佐野 友紀 建築学、建築計画・安全計画/防災・安全論
	松本 孝 文化・社会人類学、スペイン地域研究/ヨーロッパ地域論
	中村 淳 フランス文学、フランス文化社会学/フランス文化論
	松本 望 環境科学、大気環境科学/大気環境科学
	余諾 塚悟 文化人類学、考古学、技術文化論/技術・生活文化研究
助教授	加藤 茂生 科学史、科学論/科学史
	大尾 真由子 社会人類学、中東地域研究/参与観察法、統計学
	尾関 美高 社会心理学、産業・組織心理学/人間科学各論(集団・組織の心理学)
	小柳 知代 環境生態学/人間科学各論(環境生態学)

■健康福祉科学科	
教授	今泉 和彦 生体機能学/生理学
	藤村 尚史 健康福祉行政/社会福祉論
	小野 充一 緩和医療/臨床死生学概論
	加藤 裕子 高齢者福祉学/高齢者福祉学
	可部 明克 健康福祉産業学/健康福祉産業論
	河本 典彦 リハビリテーション医学/リハビリテーション医学
	菅野 純 カウンセリング/学校カウンセリング
	熊野 宏昭 臨床心理アセスメント学/臨床心理学
	神原 伸一 神経科学/分子神経科学
	佐々木 和義 認知脳発達学/臨床認知発達学
	嶋田 洋徳 行動療法/行動療法
	鈴木 秀次 健康福祉バイオメカニクス/神経制御学
	鈴木 伸一 産業力カウンセリング/産業力カウンセリング
	竹中 晃二 応用健康科学/健康科学論
	田中 英樹 地域福祉論/地域福祉論
	土田 友章 バイオエシックス/臨床バイオエシックス
	永島 計 福祉医療科学/環境生理学
	梶建 金男 認知行動学/認知行動療法
	野村 忍 心身医学/医療心理学
	高山 卓朗 健康福祉支援工学/バリアフリー/環境論
	前橋 明 福祉教育、子ども健康福祉学/健康福祉指導法
	相彦 和彦 健康福祉政策学/福祉学
	吉村 正 健康福祉マネジメント/レクリエーション論
准教授	岩崎 淳 ソーシャルワーク/ソーシャルワーク論
	扇原 洋 福祉情報学/福祉情報学
	大月 友 学校コミュニティ心理学/学校コミュニティ心理学
	川名はつ子 児童福祉学/児童福祉論
	多賀 野 地域資源の活用化・連携/ソーシャルワーク論、社会福祉演習
	千葉 山成 基礎医学/基礎生物学
	佐内 塚也 ヘルスプロモーション/健康増進医学
	村岡 慶裕 リハビリテーション科学、生体計測/生体計測学
	山島 圭輔 臨床心理学/教育臨床心理学/臨床心理学特論I、教育臨床特論

助教授	安部 猛 医療福祉情報学/データリテラシー、対人関係性支援研究法
	藤井 結 心身臨床心理学/健康福祉医学概論
	増田 和夫 緩和医療/臨床死生学概論
	松田真山 高齢者福祉学/高齢者福祉学
■人間情報科学科	
教授	浅田 匡 教育実践学、教育学、教育心理学/心理教育学
	石川 敏郎 安全人間工学/安全人間工学
	金子 孝夫 情報コミュニケーション科学/情報コミュニケーション科学
	菊池 英明 高語情報科学/高語情報科学
	金 群 計算機科学、情報システム学/情報システム入門
	グレイ・ロバート 応用言語学/The Developing Adult
	向後 千春 インストラクショナル・デザイン/インストラクショナル・デザイン
	色野 美穂 感性認知科学/色彩認知科学
	スワット・タウラス 情報科学コミュニケーション技術/Intercultural Communication
	鈴木 晶夫 心理行動学/非言語行動論
	太田 慶三 教育福祉工学/教育メディア科学
	中島 表明 実験心理学、情報処理心理学/情報処理心理学
	西村 昭治 教育福祉工学/インターネット科学
	野崎栄一郎 教育工学、教育心理学/教育開発論
	榎本 浩志 ヒューマン・マシン・システム、ヒューマン・インターフェース/生活支援工学
	保崎 剛雄 教育・メディアコミュニケーション研究/Media Production & Presentation
	松長 祐明 知識情報科学、数理統計学/人工知能論
	宮崎 浩史 認知心理学/認知心理学
	宮崎 正孝 生体情報学/特殊環境応用論
准教授	尾澤 市知 教育工学、知識科学/学習環境デザイン
	加藤 樹 生活人間工学/人間工学、生活人間工学
	中村龍太郎 心理統計学、教育測定学/データリテラシーII、データリテラシーII
	三輪 麻子 生体工学/生体心理学
	百瀬 桂子 生体情報学/感覚情報理論
	森田 裕介 教育工学、科学教育/情報メディア教育論

INFORMATION

**大学院は臨床心理士第一種指定校!**  
人間科学部では、どの学科でも心理学を学ぶことができます。また、認定心理士、キャリアコーディネーター、産業力カウンセラーなどの資格取得に役立つ科目も開講しています。さらに「臨床心理士」については、大学院人間科学研究科が、(財)日本臨床心理士資格認定協会より、第一種指定大学院に認定されており、所定の科目を履修し修了することで「臨床心理士受験資格」を得ることができます。

**ニーズの高い資格関連科目を設置**  
中学・高校の教員免許状(p.140参照)の他にも、社会福祉士国家試験受験資格や1種衛生管理者(ともに健康福祉科学科のみ)のほか、社会調査士、認定心理士(ともに全学科)などの対応科目を設置しています。